



梁平—長寿高速道路 建設事業

高速道路建設により沿線地域の経済発展に貢献

アジア 中国



【外部評価者】

早稲田大学 樋口 清秀

レーティング

有効性・インパクト	b	総合評価 A
妥当性	a	
効率性	a	
持続性	a	

本事業の目的

本事業は、重慶市梁平～同市長寿間に高速道路(約110km)を建設することにより、重慶市およびその周辺都市との輸送の効率化をはかり、もって沿線地域の経済発展に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額/実行額: 240億円/192億9300万円
- 借款契約調印: 2000年3月
- 借款契約条件: 金利2.2%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド[コンサルティングサービス部分は、金利0.75%、返済40年(うち据置10年)、二国間タイド]
- 貸付完了: 2005年10月
- 実施機関名: 中華人民共和国交通運輸部
- WEBページURL:
<http://www.moc.gov.cn/>(中国語)

本事業のアウトプット

項目	計画	実績
高速道路 (梁平～長寿)	110km	114km
車線	総延長4車線	計画どおり
橋梁	約60カ所	56カ所
インターチェンジ	6カ所	計画どおり
サービスエリア	1カ所	計画どおり
メンテナンス 車両設備	1式	計画どおり
コンサルティング サービス	80M/M	計画どおり

[出典] 審査時資料および事業完了報告書(PCR)

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

2007年10月の評価者定点調査における交通量は8320台/日(小型車換算で1万1648台/日)であり、当初の計画値を下回っているが、これは接続高速道路が未完成であるという要因によるところが大きい。走行時間については、事業実施前の既存道路と比較して半分以下に短縮された。受益者調査では、高速道路の開通が、ビジネス情報の獲得や取引機会の拡大、生活改善情報の獲得機会の拡大、学校・病院等公共インフラへの移動時間の短縮等に大きく貢献したことが確認された。本事業の実施により、概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業は、中国第9次5カ年計画(1994～1999年)における内陸部の経済発展促進を目標とした高速道路ネットワーク「5縦7横路線」建設計画の中でも、特に優先度の高い線の一部であった。また、第10次5カ年計画(2000～2005年)は、重慶市を長江上流・中国西南地区の経済センターと位置づけ、同市を基点に長江上流を新興産業地域として発展させるとしている。

よって、本事業の実施は審査時および事後評価時ともに開発ニーズ、開発政策と十分合致しており、事業実施の妥当性は高い。

効率性

本事業は、重慶市梁平～同市長寿に至る約110kmの建設工事計画であり、ほぼ計画どおりに工事は実施された。本事業では、磨耗に強く長寿命のSMA道路舗装工法等の新しい技術・簡易な工法を同国で初めて導入した。こうした簡易な工法の導入に加え、工法の変更により国内あるいは近隣からの資材調達が容易になったこと等の理由で、工期は計画比83%に短縮された。事業費についても、新工法の導入により建設工期が大幅に短縮したこと、用地取得や住民移転等が予定よりも少なかったこと等から、計画比82%程度に抑えられた。

本事業は事業期間および事業費ともに計画内に収まり、効率的に実施されたと判断される。

今後の展望(持続性)

本事業の事業実施・管理運営は重慶市交通局傘下の企業である「重慶渝東高速道路有限公司」(重慶市政府100%出資)が担当している。道路の維持管理については、中国で初めて道路パトロールの部署を同会社に設置、7～8人の人員で絶えず道路パトロールを行っている。本事業は実施機関・組織の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は非常に高いといえ、教訓・提言は、特になし。